

セゾンエアコン 据付説明書・電気配線工事説明書

FDTWXP 402B, 452B
FDTWVP 502B～1602B

FDTWP 502B～1602B

天井埋込形 2-1/6
2方向吹出し

PJB012D225 

F
D
T
W
V

お願い

- 下記に示すような場所での据付、使用は避けてください。
 - ▶油の飛沫や蒸気の多い所（例：調理場、機械工場）
熱交換器の性能低下・腐食、プラスチック部品の破損の原因となります。
 - ▶腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性がある場所。熱交換器の腐食、プラスチック部品の破損の原因となります。又、可燃性ガスは発火の原因になることがあります。
 - ▶病院などの電磁波を発生する機器の近く、高周波の発生する機器の近く。
ノイズ発生によるコントロールの誤動作の原因となります。
 - ▶潮風が当たる所（海浜地区）。外板、熱交換器の腐食の原因となります。

＜お願い事項＞

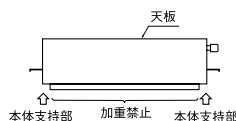
- 取扱説明書を見ながらお客様に実際に操作していただき、正しい運転のしかた（特にエアフィルタの清掃、運転操作のしかた、温度調節の方法）をご説明ください。
- 長期間使用しない時は、電源スイッチを切るようお客様にご説明ください。

工事完了後、これだけは再チェック願います。

チェック項目	不良だと	チェック欄
室内外のユニットの取り付けはしっかりしていますか。	落下・振動・騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体に表示の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

△ 注意

- 下記に据付け上の注意事項を示しますので必ずお守りください。
 - ▶直射日光の当たる所にリモコンを設置しないでください。リモコンの故障や変形の原因になることがあります。
 - ▶据付けに不備があると振動運転音増大の原因になります。
 - ▶ユニットは、据付場所の近くまで梱包のまま搬入してください。
 - ▶解梱後、ユニットを置く場合は、必ずユニット天板を下（梱包時の向き）にして置いてください。
 - ▶やむをえずユニットを逆向きに置く場合は、右記の本体支持部以外に荷重が加わらないように注意してください。
（中央部に荷重を加えるとエアフィルタ等を破損する恐れがあります。）
 - ▶リフタを使用する場合は、ユニットを本体支持部（右図参照）で支えるように置き板（平板）等を準備してください。
- 溶接作業時などに発生するスパッタが本ユニットにあたった場合、ドレンパン等に損傷（ピンホール）を与え、水漏れにいたる可能性があります。ユニットの近くで溶接作業を行う場合は、十分な注意をお願いするとともに、ユニット内へのスパッタの進入を防ぐため梱包状態のままとしておくか、おおいなどにより必ずカバーをしてください。



①据付のまえに

- 据付はこの据付説明書に従って正しく行なってください。
- 工事計画にあっておりますか。

機種・電源仕様




確認してください

配管・配線・小物部品



付属品

＜付属品＞（ユニット内に付属しております。フィルターを外し取り出してください。）

フレアナット部断熱用

1	パイプカバー		1個	ガス管用
2	パイプカバー		1個	液管用
3	バンド		4個	パイプカバー用

本体吊り込み用

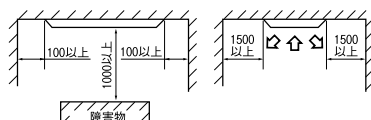
1	平座金(M10)		4個	ユニット吊り下げ用
2	型紙		1個	

ドレン配管用

1	パイプカバー		2個	ドレンソケット用
2	ドレンホース		1個	
3	ホースクランプ		1個	ドレンホース用

②室内ユニットの据付場所の選定

室内ユニット据付スペース

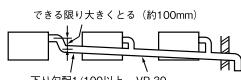
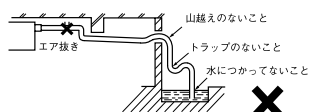
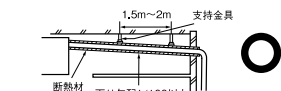
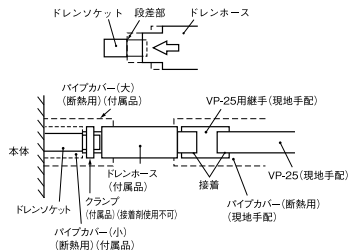
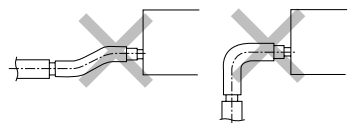


- 据付場所は下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
 - 冷風または温風が十分行きわたる所。
据付高さが3mを越えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
 - 室外への配管、配線のしやすい所。 ●ドレン排水が完全にできる所。ドレン勾配のとれる所。
 - 吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤動作しない所。ショートサーキットしない所。
 - 直射日光の当たらない所。 ●周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。

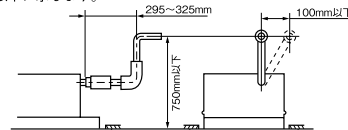
（本ユニットはJIS露付条件にて試験を行ない、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態では運転すると水滴が落下するおそれがあります。そのような条件下で使用できる可能性がある場合には、ユニット本体の全ておよび配管、ドレン配管にさらに10～20mmの断熱材を取り付けてください。）
- 据付けようとする場所がユニットの重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。

⑤ ドレン配管

(ツイン機・トリプル機の場合は全てのユニットに行ってください。)



ドレンヘッドを高くした時の注意事項を以下に示します。

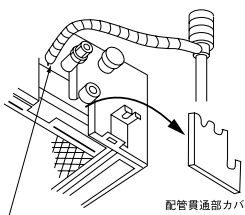


その他工事要領は通常のドレン配管工事と同一とします。

- ドレンホースは、ユニットあるいは、ドレン配管の据付時の微小なずれを吸収するためのものです。故意に曲げたり引っ張って使用された場合、破損し、水漏れに至る場合があります。
- ドレン管は市販の硬質塩ビパイプ一般管VP-25を使用してください。
- 付属のドレンホース（軟質塩ビ端）をユニットのドレンソケットの段差部まで装着し、付属のクランプで確実に締付けてください。
- 《接着剤使用不可》
- ユニット吊下げ前にドレンホース（硬質塩ビ端）に、VP-25用継手（現地手配）を接着・接続し、この継手に、VP-25（現地手配）を接着・接続してください。
- 接着剤は付属ドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。乾燥後、フレキシブルに力が加わった場合フレキシブルが破損する恐れがあります。
- ドレン配管は下り勾配（1/50～1/100）とし途中山越えやトラップを作らないようにしてください。
- ドレン配管を接続する場合、ユニット側の配管に力を加えないように注意し、できる限りユニット近傍で配管を固定してください。
- エア抜きは絶対に設けないでください。
- 複数台のドレン配管の場合左図のように、本体ドレン出口より約100mm下に集合配管がくるようにしてください。また集合管はVP-30以上を使用してください。
- 結露が発生し、水漏れをおこす可能性がありますので、下記2箇所は確実に断熱してください。
- ・ドレンソケット部
排水テストを実施後、パイプカバー（小：付属品）をドレンソケット部に装着したあと、パイプカバー（大：付属品）にてパイプカバー（小）、クランプおよびドレンホースの一部を覆い、テープによりきまのないように巻いてください。
- ・室内にある硬質塩ビパイプ
- ドレン配管の出口高さは、天井面より75cmまで高くさせることができますので、天井内に障害物等がある場合にエロボ等を用いて施工してください。この場合、立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなりオーバーフローの恐れがありますので、左図の寸法内で処理願います。
- ドレン配管の出口は異臭の発生する恐れのない場所に施工してください。
- ドレン配管はイオウ系有害ガス及び可燃性ガスの発生する下水溝に直接入れないでください。室内に有害ガス及び可燃性ガスが侵入する恐れがあります。

排水テスト

- ドレン配管工事の完了後に排水が確実に実行されていること、接続部およびユニットのドレンパン部からの水漏れのないことを確認してください。このとき、ドレンポンプのモーター音に異常がないことも確認してください。
- 暖房期の据付の際にも必ず実施してください。
- 新築の場合には天井を張る前に実施してください。



給水ポンプの先端を50mm程度、下向きに差し込んでください。

1. 配管貫通部カバーを取り外し、左図の位置より給水ポンプなどを使用してドレンポンプなどの電気部品に水をかけないように、本体ドレンパンの中へ約1000ccほど注入してください。
 2. ドレン排水しているか排水口部で確認してください。
 3. ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかをテストしてください。
- ※ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかをテストしてください。
- 排水テスト後は、ドレンプラグを外して水抜き確認後はドレンプラグを元通りにはめ込んでください。
- ドレン配管の断熱を本体部まで完全に行ってください。

ドレン自然排水口を使用する場合

- 自然排水用接続チューブ（オプション）を使用して、ドレン管（VP-20）を接続し、クランプで完全に締付けてください。
- （※ドレン自然排水口にドレン管を直接接続すると、ドレンパンははずれなくなります。）

（ドレンモーター用コネクタの取り外し）

下図に示すようにドレンモーター用コネクタCNRを取り外してください。

（注：コネクタを接続したままで使用すると標準ドレン配管接続口よりドレン水が排出され、水漏れとなります。）

ドレンポンプ運転方法

- 電気配線工事が完了している場合

ドレンポンプの運転がリモコン（ワイヤード）操作により可能です。

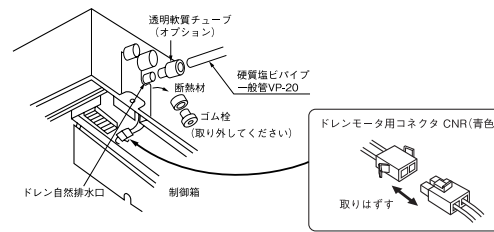
運転操作方法は、裏面の⑥ドレンポンプ運転操作をご覧ください。

- 電気配線工事が完了していない場合

室内機基板上的の設定を応急運転（SW9-3 ON）にし、かつ、基板上のコネクタCnBを抜いた後、電源ON（端子台①②へAC200V）15秒後にドレンポンプは連続運転します。

注意：送風機も同時に運転しますのでご注意ください。

排水テスト後は、必ず応急運転設定を元の状態（SW9-3 OFF）に戻し、かつ、基板上のコネクタCnBを差し込んでください。



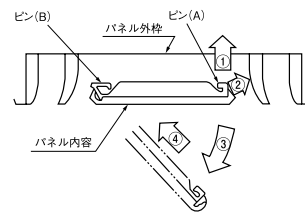
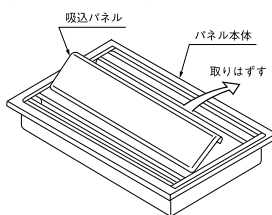
⑥ パネル取付け

（パネル取付用ボルトはパネルに付属しています。）

（※パネル吹出口部は爪を立てるとへこみやすいので取扱いは十分注意してください。）

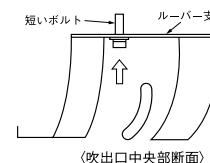
1. 本体付属の型紙で本体高さ及び天井開口寸法が正しいことを確認してください。
- ▶型紙はパネル取付前には取りはずしてください。
- 吹込パネルをパネル本体から取りはずしてください。（下図参照）
2. パネルに付属のボルト4本のうち、2本を本体側取付部に対角に5mm弱ねじ込みます。
3. 2本のボルトにパネルをひっかけ、仮止めをしてください。
4. 仮止めたボルト及び残りのボルト（2本）を締めつけてください。
5. ルーバーモーター用コネクタとリミットスイッチ用コネクタをそれぞれ接続してください。（オートスイングなしは不要）
6. リモコン操作でルーバーモーターが作動しない場合は、コネクタ接続を確認後電源を10秒間以上切り、リセットしてください。

〈吸込パネル脱着方法〉



TW-PSA-43Wパネルの場合

1. 長いボルト（35mm、4本）を用いて左記の1～4.行程をおこなってください。
2. 短いボルト（15mm、2本）にて、左右吹出口中央のルーバー支持部（下図）を締めつけてください。
3. 左記の5～6.行程をおこなってください。



電気配線工事

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

⑦ 電源・室内外接続線

お願い

室内外接続線は必ず3心ケーブルを使用してください。詳細は室外機据付説明書を参照ください。

⚠ 警 告

●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。

●電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及びこの据付工事説明書に従って施工し、必ず専用回路とし、かつ定格の電圧、ブレーカーを使用する。電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災等の原因になります。

⚠ 注 意

●アース工事を行う。アース線は、ガスパ、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース線が不完全な場合は感電の原因になります。

●電源には必ず漏電遮断器（高調波対応品）を取付ける。漏電遮断器が取付けられていないと感電の原因になります。

●正しい容量のブレーカー（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）・配線用遮断器）を使用する。大きな容量のブレーカーを使用すると、故障や火災等の原因になります。

シングル機の結線

①電源の取り方は下表の接続パターンから選定し、行ってください。室内電源取り及び室内外別電源取りは原則できません。（ヒータ用電源は除く）

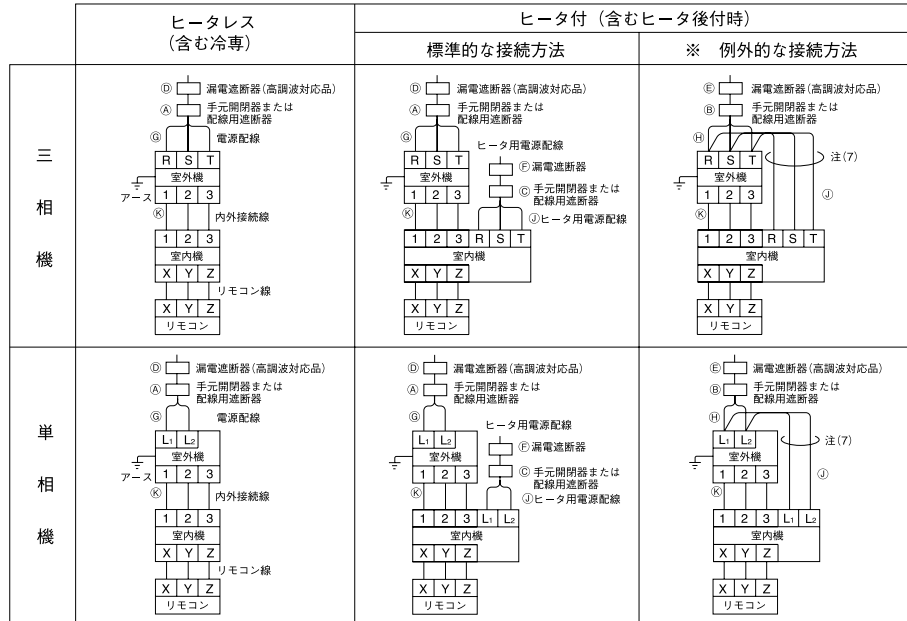
※例外的な接続方法の場合は技術資料を参照のうえ、所轄の電力会社にご相談の上指示に従ってください。

②室内外接続線は極性がありませんので、必ず同一端子台番号間を接続してください。

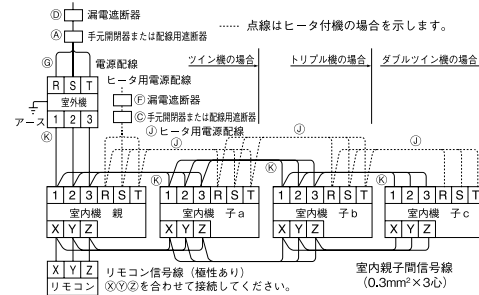
③電源には必ず漏電遮断器を取付けてください。

漏電遮断器は、インバータ回路用遮断器（三菱電機製NV-Cシリーズまたは、その同等品）を選定してください。

④漏電遮断器が地絡保護専用の場合には、漏電遮断器と直列に手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）または、配線用遮断器が必要となります。



ツイン・トリプル機の結線



①室内親・子機間は端子台①②③及び⑧⑨⑩の同一番号間を接続してください。

②室内基板上的ロータリスイッチSW2により、同一冷媒系統すべての室内機を同一アドレスに設定してください。

③室内子機は、室内基板上的アドレススイッチSW5-1, SW5-2により、子a～子cに設定してください。

④電源投入後、リモコンの「エアコンNo./点検」スイッチを押し、接続されている室内親・子機No.がリモコンに表示される事を必ず確認してください。

室内機の親・子設定方法

工場出荷時「親」設定

		室 内 機			
		親	子 a	子 b	子 c
室 内 基 板	SW5-1	OFF	OFF	ON	ON
アドレススイッチ	SW5-2	OFF	ON	OFF	ON

開閉器・配線仕様

〈シングル機：ヒータレス〉

注（1）配線こう長は、電圧降下2%とした場合を示します。表示の配線こう長を超える場合は、内線規程により配線太さを見直してください。

⑧の記載なき欄の配線こう長は50mです。

（2）ヒータレス時の室外機アース線については、室外機据付説明書の電気配線欄をご覧ください。

（3）ヒータ後付時の室外機アース線については、ヒータ後付時の下表をご覧ください。

（4）衝撃波不動作形のブレーカーを使用してください。

（5）XPシリーズの室外機と組合わせる場合はXPシリーズの欄、VPシリーズの室外機と組合わせる場合はVPシリーズの欄をご覧ください。

機 種	室外機	漏電遮断器 定格電流	手元開閉器 開閉器容量 B種ヒューズ	配線用遮断器 定格電流	電源配線 注(1)	内外接続線 注(1)
		⑧	⑨	⑩	太さ×本数 こう長	太さ×本数 ⑪
X P シ リ ー ズ ヒ ー タ レ ス	単相	P40～P56				φ1.6×3
		P63～P80				φ1.6×3
	三相	P40～P63				φ1.6×3
		P80				φ1.6×3
		P112				φ1.6×3
V P シ リ ー ズ ヒ ー タ レ ス		P140～P160				φ1.6×3
	単相	P40～P56				φ1.6×3
		P63～P80				φ1.6×3
	三相	P40～P56				φ1.6×3
		P63～P80				φ1.6×3
V P シ リ ー ズ ヒ ー タ レ ス		P112				φ1.6×3
		P140～P160				φ1.6×3
						φ1.6×3

〈シングル：ヒータ後付時〉

- 注 (5) ⑧の仕様については上表のヒータレスと同一です。
 (6) 配線こう長は、電圧降下2%とした場合を示します。表示の配線こう長を超える場合は、内線規程により配線太さを見直してください。
 ④の記載なき欄の配線こう長は50mです。
 (7) 室内外接続線 ⑥とヒータ用電源線 ⑦は必ず別ケーブルとしてください。

X Pシリーズ・ヒータ後付時		室外機	漏電遮断器 定格電流		手元開閉器		配線用遮断器		手元開閉器		配線用遮断器		電源配線 注(6)		ヒータ用電源配線 注(6)		アース線	
					開閉器 容量	B種 ヒューズ	定格 電流	開閉器 容量	B種 ヒューズ	定格 電流	太さ×長さ	こう長	太さ×長さ	こう長				
			(E)		(F)		(B)		(C)		(H)		(J) 注(7)		太さ	ネジ		
三相	P63	20A,30mA,0.1sec以下		15A, 30mA, 0.1sec以下	30A	20A	20A	15A	15A	15A	φ2.0×3	23m	φ1.6×3	30m	φ1.6	M5		
	P80	30A,30mA,0.1sec以下			30A	30A	30A	15A	15A	15A	5.5mm ² ×3	22m	φ1.6×3	30m	φ1.6	M5		
	P112				50A	40A	40A	15A	15A	15A	5.5mm ² ×3	22m	φ1.6×3	27m	φ2.0	M5		
	P140-P160	40A,30mA,0.1sec以下			50A	40A	40A	15A	15A	15A	8.0mm ² ×3	25m	φ1.6×3	27m	φ2.0	M5		

V Pシリーズ ヒータ後付時	室外機	漏電遮断器 定格電流		手元開閉器		配線用遮断器		手元開閉器		配線用遮断器		電源配線 注(6)		ヒータ用電源配線 注(6)		アース線	
				開閉器 容量	B種 ヒューズ	定格 電流	開閉器 容量	B種 ヒューズ	定格 電流	太さ×本数	こう長	太さ×本数	こう長				
		(E)		(F)		(B)		(C)		(H)		(J) 注(7)		太さ	ネジ		
三相	P50・P56	20A,30mA,0.1sec以下		15A, 30mA, 0.1sec以下	30A	20A	20A	15A	15A	15A	5.5mm ² ×3	39m	φ1.6×3	30m	φ1.6	M5	
	P63	30A,30mA,0.1sec以下			30A	30A	30A	15A	15A	15A	5.5mm ² ×3	25m	φ1.6×3	30m	φ1.6	M5	
	P80	30A,30mA,0.1sec以下			30A	30A	30A	15A	15A	15A	5.5mm ² ×3	22m	φ1.6×3	27m	φ1.6	M5	
	P112～P160	40A,30mA,0.1sec以下			50A	40A	40A	15A	15A	15A	8.0mm ² ×3	26m	φ1.6×3	27m	φ2.0	M5	

〈ツイン・トリプル機：ヒータ後付時〉

- 注 (5) ⑧の仕様については上表のヒータレスと同一です。
 (9) 配線太さ ④は20mまでの電圧降下(2%)を見込んであります。現地の配線が20mを超える場合は、内線規程により配線太さを見直してください。
 (10) 室内機にヒータ装着した場合、室外機アース線太さを見直してください。

ヒータ後付時	室内機ヒータ 合計容量 (三相)	漏電遮断器 ⑤	開閉器 (A) ⑥	配線太さφmm又はmm ² 注(9) ④
	4.3Kw以下	15A 30mA,0.1sec以下	30	φ1.6
	5.0Kw以下		30	φ2.0
	6.9Kw以下	20A 30mA,0.1sec以下	30	φ2.0
	10.0Kw以下	30A 30mA,0.1sec以下	30	5.5

室外形式	アース線	
	太さ φmm又はmm ²	ねじ
P80	φ1.6	M5
P112・P140	φ2.0	M5
P160	5.5	M6

⑧ リモコン リモコンは別売です。

リモコンの据付

お願い 次の位置は避けてください。

- 直射日光の当たる場所
- 発熱器具の近く
- 湿気の多い所・水の掛る所
- 取付面に凹凸がある所

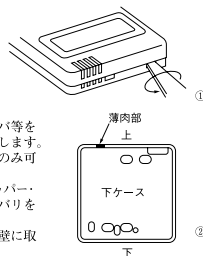
注意

リモコンの上ケースを取り外した場合は、リモコンを据付けするまで、基板上にゴミ或いは水分等が付着しないように、梱包箱或いは梱包用袋に入れて保護してください。

取付要領

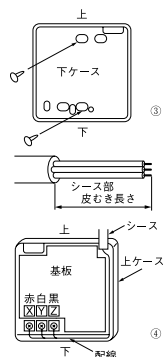
露出取付

- リモコンケースをはずしてください。
●リモコン上部の凹部にマイナスドライバ等を差し込んで軽くねじり、ケースをはずします。
- リモコンコードの取出し方向は、上方向のみ可能です。
●リモコン下ケース側の上方薄内部をニッパ・ナイフ等で切り取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。
- リモコン下ケースを付属の木ねじ2本で壁に取り付けます。



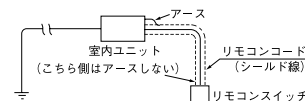
- リモコンコードを端子台に接続してください。
室内機とリモコンの端子番号を合わせて接続してください。端子には極性があるので間違えると運転できません。
端子：⑤赤線、⑦白線、②黒線
リモコンコードは、0.3mm² (推奨) ～最大 0.5mm² 以下としてください。
また、リモコンケース内を通る部分はシース部を皮むきしてください。
各配線の皮むき長さは下記の通りです。
黒：195mm
白：205mm
赤：215mm
- 上ケースを元通りに取り付けてください。
- リモコンコードをコードクランプを使用して壁等に固定します。
- 室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。

⑥ 機能の設定の項をご覧ください。



リモコンコードを延長する場合の注意 ▶ 最大総延長600m

- コードは必ずシールド線を使用してください。
 ●全形式：0.3mm²×3心 (MVS3C (京阪電線))
 注 (1) 延長距離が100mを超える場合は、下記のサイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。
 100～200m以内……0.5mm²×3心
 300m以内……0.75mm²×3心
 400m以内……1.25mm²×3心
 600m以内……2.0mm²×3心
 ●シールド線は必ず片側のみをアースしてください。

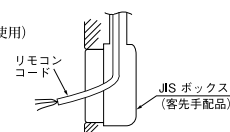


埋込取付

- JISボックスとリモコンコード
(延長の場合はシールド線を必ず使用)
をあらかじめ埋込んでおきます。

〔使用可能JISボックス〕

- JIS C 8336
1 個用スイッチボックス
2 個用スイッチボックス



1 個用スイッチボックスの場合 2 個用スイッチボックスの場合

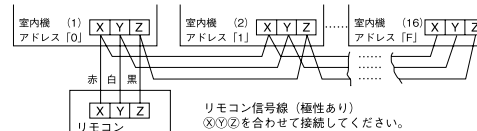
- リモコンの上ケースを外してください。
- 下ケースをM4ねじ2本 (頭φ8以下) を用意してJISボックスに取付けてください。
- リモコンコードをリモコンに接続します。
〔露出取付〕の項をご覧ください。
- 上ケースを元通り下ケースにはめ込み取付完了です。
- 室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。

⑥ 機能の設定の項をご覧ください。

⑨ 1リモコンによる複数台室内機制御

室内ユニット最大16台まで接続可能です。

- 各室内ユニット間を3心のリモコン線にて渡り配線してください。
延長リモコン線については、前記の項〔リモコンコードを延長する場合の注意〕をご覧ください。
- 室内基板上のロータリースイッチSW2により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「0」～「F」に設定してください。

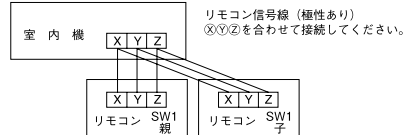


- 電源投入後、リモコンの[エアコン]を押すと室内機アドレスが表示されますので、▲▼ボタンで接続されている室内機アドレスがリモコンに表示されることを、必ず確認してください。

D 複数リモコン使用時の親設定

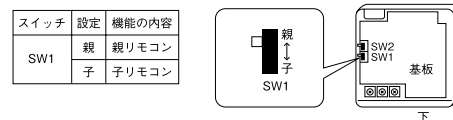
室内ユニット1台（又は1グループ）に対して最大2個までのリモコンを接続できます。

①子リモコンのリモコン連絡線（3心）は室内ユニットから取る方法と親リモコンからの渡り配線による方法があります。



②子リモコンの切換スイッチSW1を子に設定してください。工場出荷時は親設定です。

(注) リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。親リモコンを室温検知させる位置に取付けてください。



E 機能の設定

●本機の各機能は、リモコンと室内機を接続した際に、標準的な設定である、下表「○」印の項目に、自動的に設定されます。従って、新たに設定をする必要はありません。

但し、グリル昇降有効設定や、「○」印の初期設定を変更したい場合は、その機能番号の項目のみ、設定をしてください。設定方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。

初期設定では、リモコンはグリル昇降無効の設定となっていますので、自動昇降パネルご使用の場合は、必ずグリル昇降有効の設定が必要です。設定方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。

(1) リモコン機能				(2) 室内機能			
機能番号A	機能内容④	設定内容⑤	初期設定	機能番号A	機能内容④	設定内容⑤	初期設定
01	グリル昇降設定	有効/50Hz地区有効/60Hz地区	○	01	高天井設定	標準	○
02	自動運転設定	自動運転有効	○	03	フィルター設定	600時間後	○
03	温度設定	温度設定有効	○	04	ルーバ制御設定	ルーバ4位置停止	○
04	運転切換	運転切換有効	○	05	外部入力切換	イルミ入力	○
05	運転/停止	運転/停止有効	○	06	運転許可/禁止	通常運転	○
06	風量調整	風量調整有効	○	07	暖房室温補正	室温補正+3℃	○
07	風向調整	風向調整有効	○	08	暖房ファン制御	弱風	○
08	タイマ	タイマ有効	○	09	凍結防止温度	2.5℃	○
09	リモコン設定	リモコン有効	○	10	凍結防止制御	ファン制御有効	○
10	停電補償設定	停電補償有効	○	11	電気集塵機	ファン制御有効	○
11	換気設定	換気運転	○	12	加湿器制御	ドレンが非連動	○
12	温度範囲設定	表示変更有	○				
13	室内ファン連動	ファン3速	○				
14	冷房/ヒートポンプ	ヒートポンプ	※				
15	外部入力設定	個別運転	○				
16	LED表示設定	LED表示有	○				
17	ルーバ制御設定	ルーバ4位置停止	○				

注1:「※」印の初期設定は、接続される室外機の機種（ヒートポンプ機/冷専機）により、自動判別されます。

注2: (1) リモコン機能 の④ルーバ制御設定を変更する場合は、(2) 室内機能 の④ルーバ制御設定も変更してください。

F ドレンポンプ運転操作

ドレンポンプ運転がリモコン操作により可能です。リモコンを次の手順で操作してください。

- ドレンポンプ強制運転の開始
 - 「**運転**」ボタンを3秒以上押します。「項目」で選択 → 「**セット**」で決定 → 「冷房試運転」表示と、表示が切り換わります。
 - 「冷房試運転」表示の時に、「**運転**」ボタンを一度押し、「ドレンポンプ運転」表示させます。
 - 「**セット**」ボタンを押すと、ドレンポンプ運転を開始します。表示: 「ドレンポンプ運転」 → 「**セット**」で停止。
- ドレンポンプ運転の解除
 - 「**セット**」ボタン又は、「**運転/停止**」ボタンを押すと、ドレンポンプ強制運転を停止します。エアコンは停止状態となります。

G 冷房試運転操作

リモコンを次の手順で操作してください。

- 冷房試運転の開始
 - 「**運転/停止**」ボタンを押して、運転します。
 - 「**運転切換**」ボタンにより、「冷房」を選択します。
 - 「**運転**」ボタンを3秒以上押します。「項目」で選択 → 「**セット**」で決定 → 「冷房試運転」表示と、表示が切り換わります。
 - 「冷房試運転」表示で、「**セット**」ボタンを押すと、冷房試運転を開始します。表示は、「冷房試運転」となります。
- 冷房試運転の解除
 - 「**運転/停止**」ボタン又は、温度設定「**設定**」ボタンを押すと、冷房試運転を終了します。「冷房試運転」表示が消灯します。

運転データの確認

リモコン操作により、運転データの確認ができます。

- 「**点検**」ボタンを押します。「項目」で選択 → 「**セット**」で決定 → 「運転データ表示」表示と、表示が切り換わります。
- 「運転データ表示」表示で、「**セット**」ボタンを押します。
- 表示が「室内00▲」（点検）となります。「▲」ボタンで、表示したい室内機番号を選びます。（室内機が一台しか接続されていない時は、室内番号は切り換わりません。）
- 「**セット**」により確定します。（室内機番号が点検から点検に変わります。）「データ読込中」（データを読込む間点検表示）が表示されます。「**運転データ**」表示され、01番のデータが表示されます。
- 「**▲**」ボタンにより、現在の運転データを01番より順に表示します。表示される項目は右記の通りです。
※機種により該当するデータがないものは、その項目は表示されません。
- 室内機を変更する場合は、「**エアコンNo.**」ボタンを押すことにより、室内機選択表示に戻ります。
- 「**運転/停止**」ボタンを押すと、終了します。

設定の途中で、「**リセット**」ボタンを押すと、一回前の設定画面に戻ります。

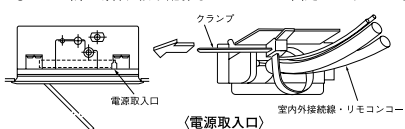
H 制御の切換 (注) □ 囲みは、工場出荷時の設定

J-1	短絡 開放	遠方運転入力 (CnT) をレベル入力 遠方運転入力 (CnT) をパルス入力	SW9-1 SW9-2	自動昇降パネルの降下長さの設定
J-2	短絡 開放	暖房サーモOFF時弱風 暖房サーモOFF後5分間停止し弱風	SW9-3	OFF ON
J-3	短絡 開放	通常運転 遠方運転入力 (CnT) により運転制御	SW9-4	OFF ON
J-4	短絡 開放	暖房室温検知補正+3℃		高天井制御(ファン回転数アップ)

●自動昇降パネルの降下長さの設定方法は自動昇降パネルの据付説明書をご覧ください。

配線接続要領

- 電装品箱の蓋を開けてください。
- 室内外接続線・リモコンコードはすべて下図の電源取入口を貫通させてください。
- 各配線を端子台の決められた場所に接続してください。
- 配線接続後、配線は全てクランプで確実に固定してください。

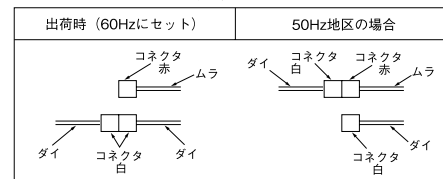


送風装置タップ切換

VPシリーズ: P71~P140
XPシリーズ: P112~P160

〈お願い〉

●50Hz地区でご使用の場合は、室内モータ用キャパシタのコネクタを50Hz側に差し替えてください。（コネクタは制御箱から離れた側のファン吸込口の横に有ります。）



セゾンエアコン 据付説明書・電気配線工事説明書

FDTSVXP 402B, 452B, 712B, 802B **FDTSP** 502B～632B
FDTSP 502B～632B

天井埋込形 3-1/5
1 方向吹出し

PJC012D007

お願い

○下記に示すような場所での据付、使用は避けてください。

- ▶油の飛沫や蒸気の多い所（例：調理場、機械工場）
熱交換器の性能低下・腐食、プラスチック部分の破損の原因となります。
- ▶腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある場所。熱交換器の腐食、プラスチック部品の破損の原因となります。又、可燃性ガスは発火の原因になることがあります。
- ▶病院などの電磁波を発生する機器の近く、高周波の発生する機器の近く。
ノイズ発生によるコントローラの誤動作の原因となります。
- ▶潮風が当たる所（海浜地区）。外板、熱交換器の腐食の原因となります。

工事完了後、これだけは再チェック願います。

チェック項目	不良だと	チェック欄
室内外のユニットの取り付けはしっかりしていますか。	落下・振動・騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体に表示の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

VPシリーズ	—	P50～P63
XP, VXPシリーズ	P40～P56	P63～P80
パネル	TS-PSA-28W	TS-PSA-38W
パネル下がり天井設置	TS-PNA-28W	TS-PNA-38W

注意

○下記に据付け上の注意事項を示しますので必ずお守りください。

- ▶直射日光の当たる所にリモコンを設置しないでください。リモコンの故障や変形の原因になることがあります。
- ▶アースを取ってください。アース線はガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は、誤動作や感電の原因になることがあります。
- ▶漏電ブレーカーの取り付けが必要です。漏電ブレーカーが取り付けられていないと感電や火災の原因となる場合があります。
- ▶エアコンの重量に十分耐えられる場所に確実に設置してください。据付けに不備があるとユニットの落下によるケガや振動及び運転音増大の原因になります。
- ▶ユニットは、据付場所の近くまで梱包のまま搬入してください。
- ▶冷媒ガスが漏れた時、室内の冷媒濃度が限界濃度（0.3kg/m³）を超える恐れのある場合は、窒息防止のために隣室との間の開口部やガス漏れ検知警報と連動する機械換気設置等の取付けが必要となりますので、お買い上げの販売店にご相談ください。
- 溶接作業時などで発生するスパッタが本ユニットにあたった場合、ドレンパン等に損傷（ピンホール）を与え、水漏れにいたる場合があります。ユニットの近くで作業を行う場合は十分な注意をお願いするとともに、ユニット内へのスパッタの侵入を防ぐため、梱包状態のままとしておくかおおいなどにより必ずカバーをしてください。

〈お願い事項〉

- 取扱説明書を見ながら、お客様に実際に操作していただき、正しい運転のしかた（特にエアフィルタの清掃、運転操作のしかた、温度調節の方法）をご説明ください。
- 長時間使用しない時は、電源スイッチを切るようにお客様にご説明ください。電源スイッチを入れたままにしておきますと、クランクケースヒータ等に通電されエアコンを使用しなくても電力を消費することになります。

①据付のまえに

- 据付はこの据付説明書に従って正しく行なってください。
- 工事計画にあっておられますか。

機種・電源仕様

確認してください

配管・配線・小物部品

付
属
品

<付属品>（ユニット内に付属しております。フィルターを外して取り出してください。）

① 本体吊り込み関係

型	紙		2個	（左右各1個）
---	---	--	----	---------

② フレアナット部断熱用

1	パイプカバー(大)		1個	ガ ス 管 用
2	パイプカバー(小)		1個	液 管 用
3	バ ン ド		4個	パイプカバー用

③ パネル関係

丸小ネジ		7個	直吹パネル固定時
------	--	----	----------

④ ドレン配管用

1	パイプカバー(大)		1個	ドレンソケット用
2	パイプカバー(小)		1個	ドレンソケット用
3	ドレンホース		1個	
4	ホースクランプ		1個	ドレンホース用

②据付場所の選定

1. 据付場所は下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。

- 冷風または温風が十分行きわたる所。据付高さが3mを越えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をお勧めください。
- 室外への配管、配線のしやすい所。
- ドレン排水が完全にできる所。ドレン勾配のとれる所。
- 吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤動作しない所。
- 直射日光の当たらない所。
- 周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80％以下の所。

（高湿度の所に据付ける場合は本体の断熱等露付に対する配慮をしてください。本ユニットは、JIS露付条件にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態では運転すると、水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合には、ユニット本体の全て及び配管、ドレン配管にさらに10mm～20mmの断熱材を取り付けてください。）

2. 据付けようとする場所がユニットの重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われるら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。

天井埋込形 3-2/5

1 方向吹出し

標準設置	高天井設置	下がり天井設置	各設置方法共通

③吊り込み

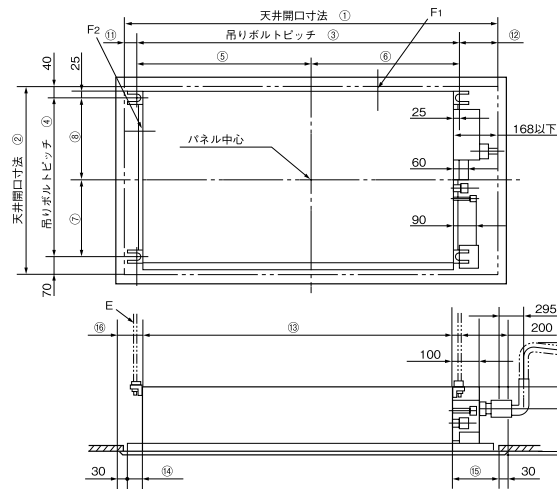
●吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。

○システム天井（グリッド天井・ライン天井）の場合

吊り長さ（吊りボルトの長さ）500mm以上又は天井ふところ高さ700mm以上の場合に耐震プレスを設置する。

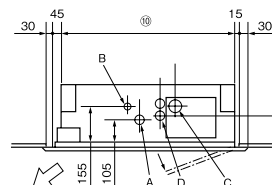
○強度が充分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合

吊り長さ（吊りボルトの長さ）1000mm以上の場合に耐震プレスを設置する。



A	冷媒ガス側配管
B	冷媒液側配管
C	ドレン配管接続口
D	電源取入口
E	吊りボルト
F1,2	O A 取入口

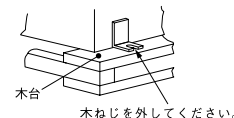
VPシリーズ	—	P50~P63
XP,VXPシリーズ	P40~P56	P63~P80
①	1230	1440
②	710	
③	990	1250
④	600	
⑤	555	675
⑥	435	575
⑦	285	
⑧	315	
⑨	194	
⑩	650	
⑪	60	45
⑫	180	145
⑬	940	1200
⑭	85	70
⑮	205	170
⑯	115	100



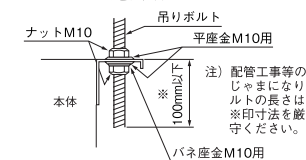
搬入



- 搬入はできるだけ据付場所の近くまで梱包のまま搬入してください。
- やむをえず解梱して搬入する場合はナイロンスリングなどで包みユニットを傷つけないよう注意してください。
- 解梱後ユニットを置く場合は必ずユニット下面側を上においてください。（ユニット下面側が発泡スチロールででき）ており、損傷をふせぐため。
- ユニットと木台は木ねじ（2ヶ所）で固定されています。解梱時には、木ねじを取外してください。

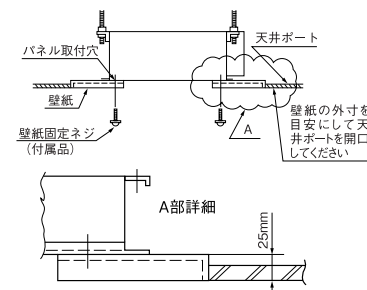


○ユニット固定要領



本体を据付けたとき、本体と天井又は壁穴の寸法が出ないときは、据付金具の長穴になっていますので調整してください。

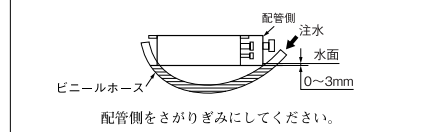
○天井又は壁穴あけ要領



〈水平度の調整〉

水準器を使用するか、下記の要領で水平度の調整を行ってください。

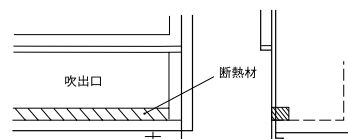
○本体下面と水平高さが下図になるように調整してください。



高天井設置改修要領

（高天井設置の場合は次の改修が必要です。）

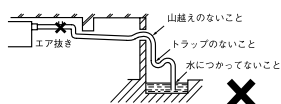
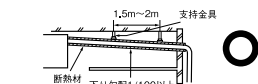
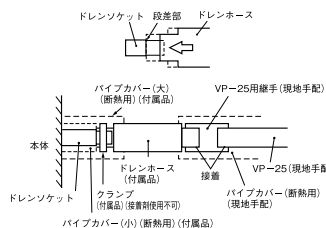
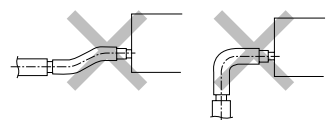
①吹出口に直吹パネルに付属の断熱材を貼り付けます。



②リモコンより機能の設定を行ってください。（50Hz、60Hz地区共）機能設定の「室内機能」を選択し、機能番号「01 高天井設定」を変更してください。操作方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。

機能番号A	機能内容B	設定内容C	出荷時設定
01	高天井設定	標準	○
		高天井1	

④ ドレン配管 (ツイン機・トリプル機の場合は全てのユニットに行ってください。)



- 付属のドレンホースとVP-25用継手の接着はユニット吊下げ前に実施してください。
- ドレンホースは、ユニットあるいは、ドレン配管の据付時の微少なずれを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っばって使用された場合、破損し、水漏れに至る場合があります。
- ドレン管は市販の硬質塩ビパイプ一般管VP-25を使用してください。
- 付属のドレンホース（軟質塩ビ端）をユニットのドレンソケットの段差部まで装着し、付属のクランプで確実に締付けてください。

〈接着剤使用不可〉

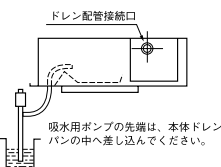
- ドレンホース（硬質塩ビ端）に、VP-25用継手（現地手配）を接着・接続し、この継手にVP-25（現地手配）を接着・接続してください。
- 接着剤は付属ドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。乾燥後、フレキ部に力が加わった場合、フレキ部が破損する恐れがあります。
- ドレン配管は下り勾配（1/50～1/100）とし途中山越えやトラップを作らないようにしてください。
- ドレン配管を接続する場合にユニット側の配管に力を加えないように注意して行いできる限りユニット近傍で配管を固定してください。
- エア抜きは絶対に設けないでください。
- 複数台のドレン配管の場合左図のように、本体ドレン出口より約100mm下で集合配管がくるようにしてください。また集合管はVP-30以上を使用してください。
- 結露が発生し、水漏れをおこす可能性がありますので、下記2箇所は確実に断熱してください。

- ・ドレンソケット部
排水テストを実施後、パイプカバー（小：付属品）をドレンソケット部に装着したあと、パイプカバー（大：付属品）にてパイプカバー（小）、クランプ及びドレンホースの一部を覆い、テープによりきまのないように巻いてください。
- ・室内にある硬質塩ビパイプ

- ドレン配管の出口高さは、天井面より60cmまで高くさせることができますので、天井内に障害物がある場合にエルボ等を用いて施工してください。この場合、立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量がかなりオーバーフローの恐れがありますので、右図の寸法内で処理願います。
- ドレン配管の出口は異臭の発生する恐れのない場所に施工してください。
- ドレン配管は、イオウ系有害ガス及び可燃性ガスの発生する下水道に直接入れないでください。室内に有害ガス及び可燃性ガスが侵入する恐れがあります。

排水テスト

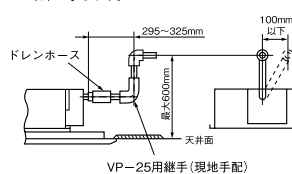
- ドレン配管工事の完了後に排水が確実に行われていること、接続部およびユニットのドレンパン部からの水漏れのないことを確認してください。このときドレンポンプのモータ音に異常がないことも確認してください。
- 暖房期の据付の際にも必ず実施してください。
- 新築の場合には天井を張る前に実施してください。



ドレンポンプ運転方法

- 電気配線工事が完了している場合
ドレンポンプの運転がリモコン（ワイヤード）操作により可能です。運転操作方法は、裏面の⑥ドレンポンプ運転操作をご覧ください。
 - 電気配線工事が完了していない場合
室内機基板上の設定を応急運転（SW9-3 ON）にし、かつ、基板上的コネクタCnBを抜いた後、電源ON（端子台①②へAC200V）15秒後にドレンポンプは連続運転します。注意：送風機も同時に運転しますのでご注意ください。
- 排水テスト後は、必ず応急運転設定を元の状態（SW9-3 OFF）に戻し、かつ、基板上的コネクタCnBを差し込んでください。

ドレンヘッドを高くした時の注意事項を以下に示します。



その他工事要領は通常のドレン配管工事と同一とします。

1. 本体吹出部より給水ポンプなどを使用してドレンポンプ等の電気部品に水をかけないように、約1000ccほど注水してください。
2. ドレン排水しているか排出口部でご確認ください。※ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかをテストしてください。
3. 排水テスト後、ドレンプラグを外して水抜きを行ってください。水抜き確認後はドレンプラグを元通りにはめ込んでください。ドレン配管の断熱を本体部まで完全に行ってください。

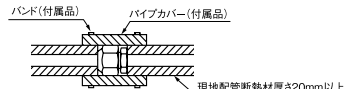
⑤ 冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

- 配管は下記材質のものをご使用ください。なお別売配管セットを使用されると便利です。（材質）リン脱酸銅繊維目無銅管（C1220T、JIS H3300）
- 配管の曲げはできるだけ大きな半径で行ってください。曲げなおしを何回も行わないでください。
- 配管は、ねじったり・つぶしたりしないでください。●配管内はゴミ・切屑・水分が混入しないように施工してください。
- フレア接続は以下に行ってください。
- ・ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。（このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）
- ・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3～4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けでしっかりと締め付けてください。

フレアナット締めトルク

φ 6.35 : 14～ 18(N・m)	φ 9.52 : 34～ 42(N・m)
φ 12.7 : 49～ 61(N・m)	φ 15.88 : 68～ 82(N・m)
φ 19.05 : 100～120(N・m)	



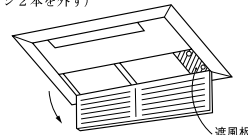
- 室内機のフレア接続部は、ガス漏れチェック後、付属の継手用断熱材をかぶせ、両端を付属のバンドでしっかりと締め付けてください。

ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。

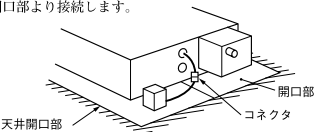
- ※液側配管は断熱しないと結露し水通れします。
- 冷媒は室外ユニットに充填されています。（室内及び接続配管分の追加量については室外の説明書をご覧ください。）

⑥ パネル取付け (パネル取付用ボルトはパネルに付属しています。)

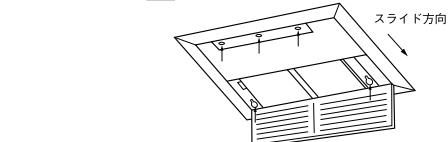
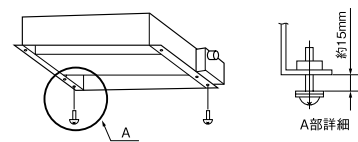
- ①吸込グリルを開け、中の遮風板を外します。（ネジ2本を外す）



- ②パネルの○穴部（2箇所）を本体のネジに引っかけて、10mm程スライドさせます。パネル取付用ネジ5本にてパネルを固定します。
- ③ルーバモータ、リミットスイッチ用コネクタを開口部より接続します。



- ④本体にパネル取付用ネジ2本を取り付けます。



- ⑤遮風板を元通り取付けてください。
 - ⑥吸込グリルを閉めて完了です。
- 吸込グリルがフックで確実に固定されていることを確認してください。※確実に固定されていないと吸込グリルが勝手に開く恐れがあります。

電気配線工事

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

① 電源・室内外接続線

お願い

室内外接続線は必ず3心ケーブルを使用してください。詳細は室外機据付説明書を参照ください。

警告

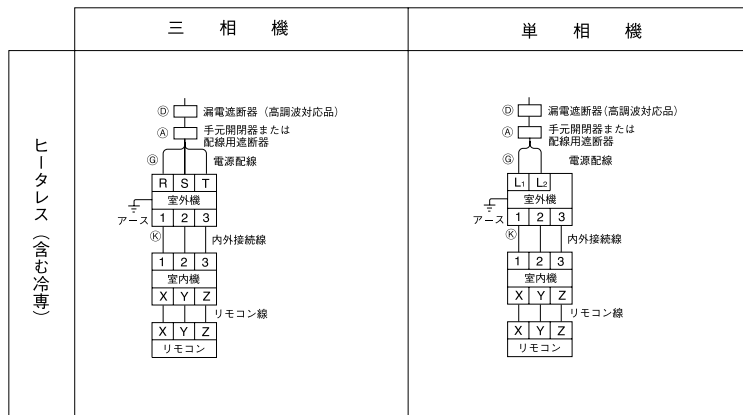
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。
- 電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及びこの据付工事説明書に従って施工し、必ず専用回路とし、かつ定格の電圧、ブレーカーを使用する。電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災等の原因になります。

注意

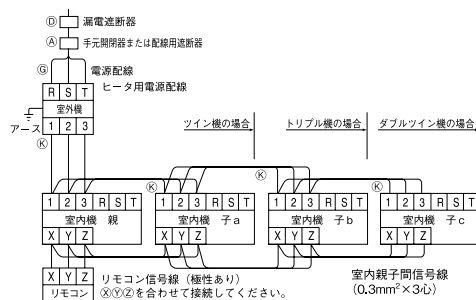
- アース工事を行う。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース線が不完全な場合は感電の原因になります。
- 電源には必ず漏電遮断器（高調波対応品）を取付ける。
- 正しい容量のブレーカー（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器+B種ヒューズ）・配線用遮断器）を使用する。大きな容量のブレーカーを使用すると、故障や火災等の原因になります。

シングル機の結線

- ①電源の取り方は下表の接続パターンから選定し、行ってください。室内電源取り及び室内外別電源取りは原則できません。（ヒータ用電源は除く）
※例外的な接続方法の場合は技術資料を参照のうえ、所轄の電力会社にご相談の上指示に従ってください。
- ②室内外接続線は極性がありますので、必ず同一端子台番号間を接続してください。
- ③電源には必ず漏電遮断器を取付けてください。漏電遮断器は、インバータ回路用遮断器（三菱電機製NV-Cシリーズまたは、その同等品）を選定してください。
- ④漏電遮断器が地絡保護専用の場合には、漏電遮断器と直列に手元開閉器（開閉器+B種ヒューズ）または、配線用遮断器が必要となります。



ツイン機・トリプル機の結線



- ①室内親・子機間は端子台①②③及び⑧⑨⑩の同一番号間を接続してください。
- ②室内基板上のローグスイッチSW2により、同一冷暖系統すべての室内機を同一アドレスに設定してください。
- ③室内子機は、室内基板上のアドレススイッチSW5-1, SW5-2により、子a～子cに設定してください。

- ④電源投入後、リモコンの「エアコンNo./点検」スイッチを押し、接続されている室内親・子機No.がリモコンに表示される事を必ず確認してください。

室内機の親・子設定方法

工場出荷時「親」設定		室内機			
室内基板	アドレススイッチ	親	子a	子b	子c
SW5-1	SW5-2	OFF	OFF	ON	ON
		OFF	ON	OFF	ON

開閉器・配線仕様

（シングル機：ヒータレス）

- 注（１）配線こう長は、電圧降下2%とした場合を示します。表示の配線こう長を超える場合は、内線規程により配線太さを見直してください。
 ⑧の記載なき欄の配線こう長は50mです。
 （２）室外機アース線については、室外機据付説明書の電気配線欄をご覧ください。
 （３）衝撃波不動作形のブレーカーを使用してください。
 （４）XPシリーズの室外機と組合わせる場合はXPシリーズの欄、VPシリーズの室外機と組合わせる場合はVPシリーズの欄をご覧ください。

XP シリーズ （含む冷専）	室外機	漏電遮断器 定格電流	手元開閉器 開閉器容量	配線用遮断器 定格電流	電源配線 太さ×本数	注(1) こう長	内外接続線 太さ×本数
		⑩	⑧	⑨	⑥	⑦	⑫
		（A）					
単相	P40～P56						φ1.6×3
	P63・P80						φ1.6×3
	P40～P63						φ1.6×3
	P80						φ1.6×3
	P112						φ1.6×3
	P140・P160						φ1.6×3

VP シリーズ ヒータレス	室外機	漏電遮断器 定格電流	手元開閉器 開閉器容量	配線用遮断器 定格電流	電源配線 太さ×本数	注(1) こう長	内外接続線 太さ×本数
		⑩	⑧	⑨	⑥	⑦	⑫
		（A）					
単相	P40～P56						φ1.6×3
	P63・P80						φ1.6×3
	P40～P56						φ1.6×3
	P63・P80						φ1.6×3
	P112						φ1.6×3
	P140・P160						φ1.6×3

② リモコン リモコンは別売です。

リモコンの据付

お願い 次の位置は避けてください。

- ①直射日光の当たる場所
- ②発熱器具の近く
- ③湿気の多い所・水の掛る所
- ④取付面に凹凸がある所

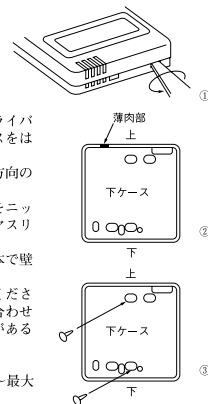
注意

リモコンの上ケースを取り外した場合は、リモコンを据付けるまで、基板上にゴミ或いは水分等が付着しないように、梱包箱或いは梱包用袋に入れて保護してください。

取付要領

露出取付

- ①リモコンケースをはずしてください。
●リモコン上部の凹部にマイナスドライバ等を差し込んで軽くねじり、ケースをはずします。
- ②リモコンコードの取出し方向は、上方向のみ可能です。
●リモコン下ケース側の上方薄肉部をニッパー・ナイフ等で切り取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。
- ③リモコン下ケースを付属の木ねじ2本で壁に取り付けます。
- ④リモコンコードを端子台に接続してください。室内機とリモコンの端子番号を合わせて接続してください。端子には極性があるので間違えると運転できません。
端子：⑩赤線、⑪白線、⑫黒線
リモコンコードは、0.3mm²（推奨）～最大0.5mm²以下とってください。

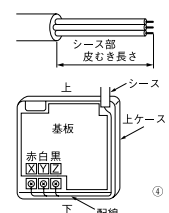


また、リモコンケース内を通る部分はシース部を皮むきしてください。
各配線の皮むき長さは下記の通りです。

黒：195mm
白：205mm
赤：215mm

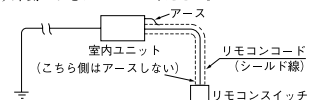
- ⑤上ケースを元通りに取り付けてください。
- ⑥リモコンコードをコードクランプを使用して壁等に固定します。
- ⑦室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。

⑤ 機能の設定の項をご覧ください。



リモコンコードを延長する場合の注意 ▶ 最大総延長600m

- コードは必ずシールド線を使用してください。
 ●全形式：0.3mm²×3心（MVVS3C（京阪電線））
 注（１）延長距離が100mを超える場合は、下記のサイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。
 100～200m以内……0.5mm²×3心
 300m以内……0.75mm²×3心
 400m以内……1.25mm²×3心
 600m以内……2.0mm²×3心
 ●シールド線は必ず片側のみをアースしてください。



埋込取付

- ①JISボックスとリモコンコード（延長の場合はシールド線を必ず使用）をあらかじめ埋込んでおきます。
【使用可能JISボックス】
●JIS C 8336
1 個用スイッチボックス
2 個用スイッチボックス

